

鹿児島の植物35

蘭牟田池の植物

植物担当 大屋 哲

蘭牟田池は、薩摩川内市の東部旧祁答院町にある火口湖です。ベッコウトンボの生息地「ラムサール条約登録湿地」として有名ですが、湿地の植物をはじめ変化に富んでいます。

湿地の植物は、生活の仕方によっておおまかに次の5つに分けられます。

- 1 浮遊植物 全体が水面に浮いている
- 2 沈水植物 全体が水中に生える
- 3 浮葉植物 葉が水面に浮いている
- 4 挺水(抽水)植物

水中から茎が飛び出して生えている

- 5 湿性植物

水辺などの湿った場所に生える

湿地の植物を調べる目的で、平成18年から数回調査を行い、蘭牟田池で見られた植物について紹介します。

ミカワタヌキモ タヌキモ科 花期8月頃
池などに生える浮遊植物で、食虫植物でもあります。葉の形がタヌキの尾のような形をしているのでこの名がついたと言われています。別名イトタヌキモ。



鹿児島県絶滅危惧類 環境省絶滅危惧 B類

ミカワタヌキモ

ミミカキグサ タヌキモ科 花期8月頃
食虫植物で、花の形が耳かきに似ているのでこの名がつけました。蘭牟田池では、浮島の上などの湿ったところに生えている湿性植物です。



鹿児島県準絶滅危惧種

ミミカキグサ

ジュンサイ スイレン科 花期8月頃
新芽は食用となる浮葉植物です。以前は多

数あったようですが、水鳥に食べられ、激減しています。鹿児島県絶滅危惧類



ジュンサイ

花期6月頃

ヒメミクリ ミクリ科
池や水路に生える挺水植物で、県内の限られた場所に分布します。果実の形がクリのいがに似ていることからミクリ(実栗)の名がつけられました。鹿児島県絶滅危惧類 環境省絶滅危惧類



ヒメミクリ

ヒツジグサ スイレン科 花期6月頃
鹿児島が南限の浮葉植物で、未の刻(午後2時)に花を開くのでこの名がつけました。多くの園芸植物が作り出されています。鹿児島県準絶滅危惧種



ヒツジグサ

エゾミソハギ ミソハギ科 花期7月頃

鹿児島が南限の植物で、湿地や水路などに生える湿性植物です。高さ1m以上にもなるため、蘭牟田池では、花の咲く頃よく目立ちます。鹿児島県準絶滅危惧種



エゾミソハギ

今回の調査では、1998年(平成10年)の調査時には広くあったヨシ群落がなくなっていたり、外来種のキショウブがかなり広がっていたりと、湿地の植物が維持されることの難しさを感じました。今後どのように変化していくのか、継続的に調査を行いたいと思います。